

東北地方 1か月予報

(8月20日から9月19日までの天候見通し)

平成17年8月19日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

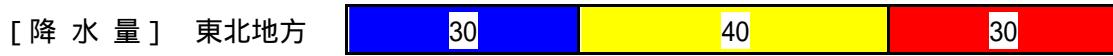
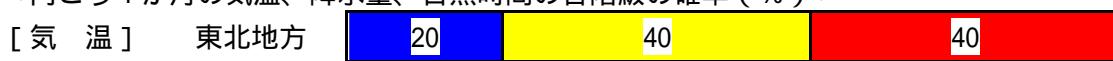
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

期間のはじめは低気圧や前線の影響で平年に比べて曇りや雨の日が多いですが、その後は高気圧におおわれて晴れる日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は平年並か高い、降水量は平年並、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目は平年並か高い、3~4週目は平年並か高いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



低い(少ない) 平年並 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



低い 平年並 高い

<予報の対象期間>

1か月 : 8月20日(土) ~ 9月19日(月)

1週目 : 8月20日(土) ~ 8月26日(金)

2週目 : 8月27日(土) ~ 9月2日(金)

3~4週目 : 9月3日(土) ~ 9月16日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は8月26日

3か月予報：8月25日(木) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	21.1	238.9	129.9	22.7	22.0	20.3
新庄	21.3	173.1	136.0	23.5	22.5	20.3
若松	22.3	140.0	156.8	24.4	23.5	21.3
深浦	21.0	182.1	167.8	22.7	21.9	20.1
青森	20.8	139.3	171.9	22.5	21.8	20.0
むつ	19.7	180.8	143.0	21.2	20.6	19.0
八戸	20.4	185.8	150.4	21.9	21.2	19.6
秋田	22.1	201.2	174.3	24.1	23.1	21.1
盛岡	20.6	191.2	132.2	22.7	21.7	19.5
宮古	20.3	229.0	134.5	21.9	21.2	19.5
酒田	22.5	205.7	173.5	24.5	23.5	21.6
山形	22.0	156.9	149.3	24.2	23.2	21.0
仙台	22.2	213.7	129.1	23.7	23.1	21.4
石巻	21.7	163.1	147.3	23.3	22.6	20.9
福島	22.9	171.4	128.5	24.8	24.0	21.9
白河	21.2	251.9	127.2	22.9	22.2	20.3
小名浜	22.8	186.6	160.9	24.0	23.6	22.2

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはあります。下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.4~+0.4	84~116	93~106
東北日本海側	-0.5~+0.6	85~109	92~107
東北太平洋側	-0.3~+0.3	80~120	89~108

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.5~+0.8	-0.7~+0.7	-0.5~+0.7
東北日本海側	-0.5~+0.7	-0.7~+0.8	-0.6~+0.7
東北太平洋側	-0.5~+0.8	-0.6~+0.8	-0.5~+0.7

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。

階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるよう決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成17年8月19日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(8月20日~9月19日):

期間のはじめは低気圧や前線の影響で平年に比べて曇りや雨の日が多いですが、その後は高気圧におおわれて晴れる日が多い見込みです。

平均気温は平年並か高いでしょう。

1週目(8月20日~8月26日):

期間の中頃までは前線の影響で曇りや雨の日が多いですが、期間の終わりは高気圧におおわれて晴れる見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

2週目(8月27日~9月2日):

高気圧におおわれて平年と同様に晴れる日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

3~4週目(9月3日~9月16日):

天気は数日の周期で変化するでしょう。平年に比べて晴れる日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いでしょう。

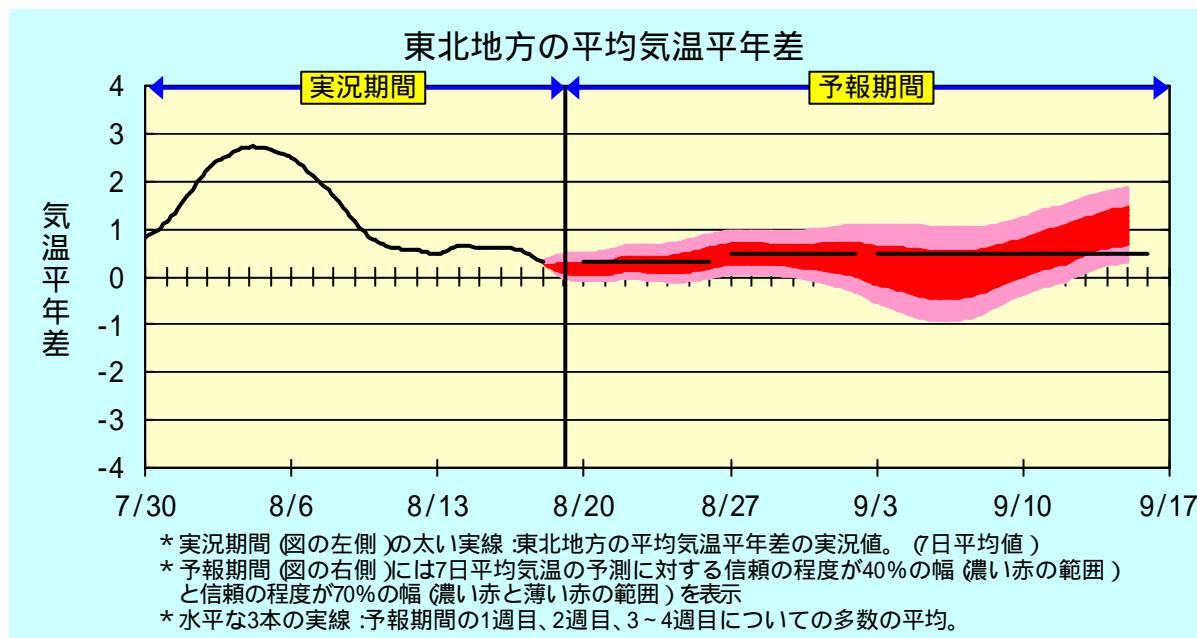
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	14.3日	3.8日	3.9日	6.6日
東北太平洋側	12.3日	3.3日	3.4日	5.6日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目、2週目、3~4週目ともに「平年並」と予測している。予報はその他の資料から、2週目と3~4週目を「平年並か高い」とする。

なお、数値予報の信頼度は小さい。

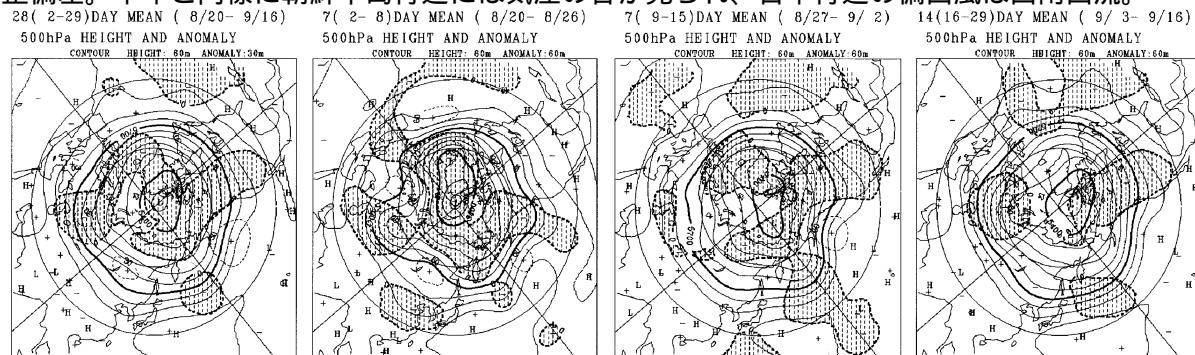


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、北半球は極域では負偏差、中緯度は正偏差が卓越。極東域の偏西風の流れは順調。太平洋高気圧の日本付近への張り出しが平年並。上空の寒気は入りにくい。

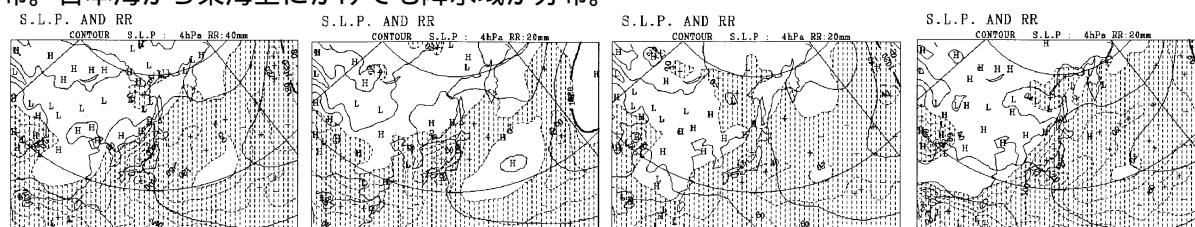
1週目は、月平均場と同様に極域は負偏差。中国は気圧の谷が明瞭、太平洋高気圧は日本の東海上へ強く張り出し、日本付近の偏西風は南西流。日本付近では低気圧が発達しやすい場。2週目は、日本付近はオホーツク海に中心をもつ正偏差に覆われる。3~4週目は日本付近は引き続き正偏差。平年と同様に朝鮮半島付近には気圧の谷が見られ、日本付近の偏西風は西南西流。



地上気圧と降水量：

月平均では、太平洋高気圧の日本付近への張り出しが平年並、オホーツク海高気圧は不明瞭。平年並程度の降水域が日本付近にかかっている。

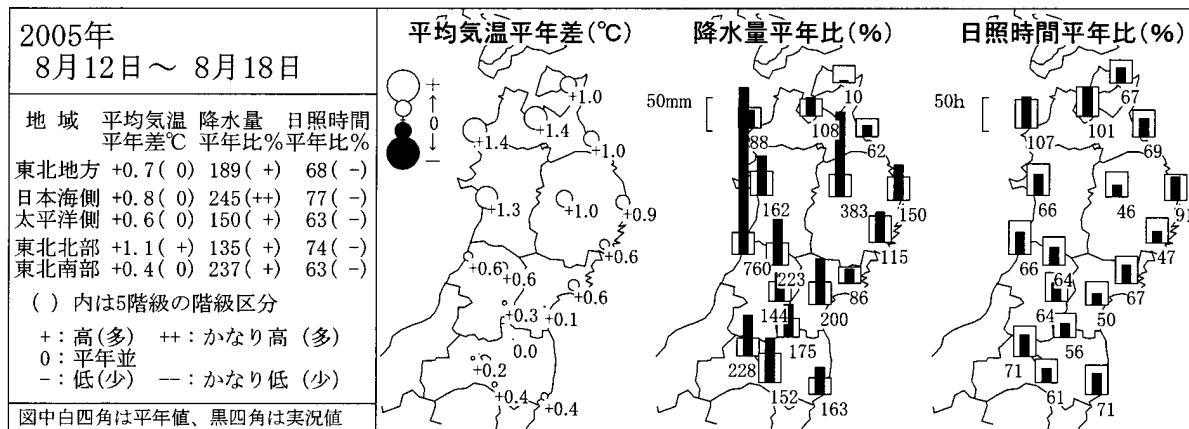
1週目は、日本海にまとまった降水域が見られる。中国東北区からオホーツク海にかけて高圧部が分布。2週目は本州の南海上にまとまった降水域が見られる。東北地方の降水域は不明瞭。3~4週目は、オホーツク海付近は低圧部。熱帯域から日本の南岸にかけてまとまった降水域が分布。日本海から東海上にかけても降水域が分布。



4. 最近1週間（8月12日～8月18日）の天候の経過

この期間、15日までは低気圧や気圧の谷の通過により曇りや雨となった。特に15日は上空に寒気を伴った低気圧が通過しまとまった雨となった。16日は湿った東風の影響で東北太平洋側では雲が広がり所々で降水もあったが、東北日本海側では晴れた。17日は高気圧に覆われて全域で晴れた。18日は日本海の前線に吹き込む湿った南寄りの風や、北の高気圧からの湿った東寄りの風の影響で東北南部では雲が広がった。

平均気温は東北北部で高く、東北南部で平年並。降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。日照時間は東北地方で少ない。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)